

2009年(平成21年)6月10日(水曜日)

言説

賞

衆評

風評

## 社長に聞く

### 新たな食品事業に進出した

カツオ漁船を一隻保有し、問屋(仲買人)事業も行っている。漁業、水産販売は古くからの看板事業でした。

缶詰製造に加え、20年ほど前に始めた肉や野菜など業務用食材の製造・販売事業が、売り上げ1億円にまで成長しました。「ブラ・ド・シェフ」というブランドで、ホテルや結婚式の調理場に食材を届けています。

真空調理法という素材の鮮度や栄養を損なわない先駆的な技術を導入しています。肉の軟らかさなどを調節でき、塩分や添加物も少なく済むので、病院への提供も考えています。現在は肉が中心ですが、魚にも広げていくつもりです。2年後には事業を独立させ、分社化する予定です。

しずおか経済



まつむら・ともよし 1953年、焼津市生まれ。京都法大法学部卒。80年に「いちまる」入社。常務、副社長などを経て2000年に社長。04年から焼津商工会議所会頭を務める。

### スポーツ事業参入

「本業にこだわるだけでなく、地域に貢献して新たな市場をつくる」(松村社長)と、スポーツ事業も展開している。

1996年に社有グラウンドを改修し、フットサル普及のために専用コート「焼津フットサル倶楽部」をオープン。「いちまる」のスポーツウェア開発室で管理運営している。現在、4面のコートがあり、競技人口の増加もあって年間約8000人が利用する。

児童向けのサッカースクールも開き、今年1月からは近くの幼稚園でサッカーやフットサルを指導する。

新焼津漁港を会場に4月に開かれる「焼津みなとマラソン」にも、今年から特別協賛している。

いちまる  
松村 友吉 さん 55

## 水産加工品開発に意欲

——小売店も好調  
スーパーマーケットを展開するグループ会社「富士屋」は1962年の創業以来、停滞期もありましたが、今ではグループ内で最大の売り上げを出しています。

——一方で漁業、水産の現状は厳しい  
国際的に魚の需要は伸びていますが、国内市場は伸びていません。マグロ類は値段を上げると消費者がすぐ離れてしまうので、小売店は値上げを極力避けず、世界的な漁獲制限が進み、水揚げも減ってきています。

——グループの展望は  
将来、石油の供給が先細りになることを考えると、これからは「環境」「エネルギー」が重要になると考えています。

——グループ会社で省エネルギー、新エネルギー事業に取り組んでいます。住宅事業でも環境を売り物にした住宅を販売していきます。

(高田育昌)